

海の詩魂

有森信二

唯我独尊であるなどとは思いません。

その海の成り立ちと、有様と、変遷を表したのが、海のホームページに書かれている次の文章です。

先日、海の同人交流掲示板に書かれた「詩魂」という言葉。これはこれまで明確にはうたつていなかった「海という誌の姿勢」を表現する一つの重要な要素であり、「海の作品の依つて立つべき精神」の一つではないかと思いました。

海には多くの先達が在籍（注1）しましたが、特に「誰を仰ぐ」とか「誰の作品を指標とする」とか「誰の精神を受け継ぐ」というものはありません。それは、海が偏狭であるというのではなく、「極めて自由である」というところに由来するからでしょう。

海には「誰その作品を読まねばならない」とか「どういう作品でなければならぬ」というものは、三十年の海の歴史のうちの約二十五年に関わってきた中からも、得なかつたものでした。

これも、海が偏見に満ちているとか、

そして間をおかず、海第一期の志を引き継いで誕生した現在の第二期においては、同ホームページに次のような文章を掲げています。『2009年（平成21年）6月 有森信二』

【理念、指標など】

1、海は、文芸作品を発表する場であり、かつ、広く、遠くに運ぶ場である。
2、海は、文芸を志す者同士の交歓の場であり、海の主人公は、同人個々である。
3、海は、生涯にわたり、文芸にかかわつていくための場である。
4、海は、文芸を志す者に、広く門戸を開放する。

その「海」は、激しいエネルギーの交錯と昇華の過程において、多くの優れた文芸作品を世に送り出し、社会的にも高く評価され、その存在を広く知らしめるところとなりました。しかし、近年、初期のエネルギーのなにかを知る同人も減り、創立期の「海」とはおおよそ趣の異なるものとなってきたため、ここに、当初目指してきた誌の役割を終えたものと判断し、第67号をもって終刊とすることにいたしました。2008年（平成20年）12月 織坂幸治』

『「海」第一期終刊以降、新生「海」を名乗ることについて、かなりの意見交換を行いました。が、「海」という誌名の他にこれを越えるものがなく、また、創立期とは内容は異なるものの「海」という誌名を引き継ぐことで、高いハードルの上に、新たなハードルを設け、次の来訪者である同人諸氏に、憩い、くつろぎ泳ぎ、潜り、あるいはあてもなく漂流することなどにより、諸氏それぞれの「NO1」（「ONLY1」）を目指し

てもらうものといたしました。よって、新生「海」（第二期）は、広く、遠く、深く、高く、どこまでも繋がり、文芸を志す誰もが、かなり自由に出入りできる場である、という意味合いを持つものとなります。」とし、また、

『1、海の同人は、自身の真摯な、やむにやまれぬ表現の発露として、小説、評論、詩、エッセイ等の文芸作品を創作し、発表する。』

2、海には、編集に関するを行うため、編集担当者で構成する編集委員会を置き、編集委員会に発行責任者を置く。

3、編集担当者は、第一に作者であり、併せて編集・発行の作業を行う。

4、海の同人は、定められた同人費を納入する。

5、海は、年2回の発行をめざす。』

などというように、基本である海の姿勢を定めています。それによると、第一期、第二期を通して変わることのないものは、「詩文についての熱い思い」であり、「手慣れた作品を書く場ではなく」、海が発する気運ともなり、以降海の仲

間たちが、日夜をものともしない論戦の中から求め続けてきた「『詩魂』あふれる作品」がそれであるのではないかと、思われてなりません。

つまり、「既成作家の某氏の作風に倣い」などということとは異なる「自身の魂を込めた作品を、真摯に追求する」、「自身の真に信じる道を打ち立てる」ということにあるのだらうと思えます。

かといって、文学の諸先輩たちや、海の先達の存在を疎かにするものではなく、彼らのピュアな「魂」を、「魂の叫び」をわれわれの新たな血肉とし、そこからさらなる「わが魂の探求」をし、「私たちの『詩魂』を込めた作品の探求」をしていくことが、今の私たちの前にあるのではないかと思いました。

まさに今日の、この波濤激しい世情の中にあつて、海の先達が試みてきたように「詩文の泉の前に立ち」、「泉を掘り下げ」、「魂に刻み」、「新たな表現を目指し」、「新たな次元を目指す」ということを志向することが、「雄渾の『海』へと漕ぎ出す指標」としてあるのではないかと思うものです。

（注1）海の先達たち
海第一期の主な在籍者（順不同）

詩

織坂幸治 荒木 力 柿添 元
山口 要、月岡祥郎、上野眞子、
久我篤忠、笹原由理、日高三郎、
大智忠之、松野弘子、徳永利笑子

評論

黄村 葉 織坂幸治、六百田幸夫
長野秀樹、西田洪三、杉山武子、
武田芳明、森岡優文、月岡祥郎

隨筆

足立 襄、山口 要、荒木 力、
黄村 葉 織坂幸治、六百田幸夫、
徳永恭子、杉山武子、兼川 晋、
椎葉秀立、森岡優文、武田芳明

小説

宝生房子、山口 要、田代 茂、
織坂幸治、徳永恭子、黄村 葉、
荒木 力、森 優一、六百田幸夫、
占部 啓、有森信二、西田洪三、
杉山武子、椎葉秀立、兼川 晋、
梶田 洋、天坊三郎、由比和子、
北里美和子、赤松健一、牧草 泉、
小川正張、小原紀史、石田 滋